

空き家管理ビジネス

全国的に増える空き家をめぐり、八幡西区の不動産会社「エスデイトプロモーション北九州」が、草刈りや郵便物回収などの空き家管理を有料で請け負っている。現在の契約件数は約30戸。住人の引

八幡西区の不動産会社

つ越しや死亡で無人になった家屋は、放火や倒壊につながるかねないだけに、北島達夫社長(49)は「空き家を放置してはいけないという機運は高まっており、依頼は増えるだろう」と語る。

草刈り、換気、ごみ投棄監視…

高齢化が背景「安心感に」

「雑草は放っておくと、どんどん生えるんです」。草刈り機を使いながら北島社長がつぶやいた。豊前市の築50年超の平屋。昨年3月から、月1回通う。湿気対策で窓を開けて換気し、下水道管からの悪臭を防ぐため排水溝に水を流す。家主は横浜市在住で、同社のホームページを見て管理を依頼してきたという。

本格的に「空き家管理サービス」を始めたのは昨年2月。県内が主な営業エリアだ。総務省の2008年調査では、利用目的のない北九州市の空き家は約2万3千戸。03年に比べ約6千戸増えた。人口減や高齢化で増加が見込まれ、各自治体も管理に頭を痛める。同社からの距離に応じた月額3千〜5千円の「基本サービス」では、月に1度現場を訪問。家屋の外から①建物の破損②第三者が侵



豊前市の空き家で草刈りをする北島達夫社長

入した形跡③ごみの不法投棄などを確認。ポストの手紙を転送し、チラシ類は捨てる。草刈りや室内清掃などは別料金が必要。契約者は県外に住む家主や家族が大半という。

北島社長は作業中、近所の人に出会おうと不審者と間違われぬように声をかける。「管理者がいれば隣人の安心感にもつながる」。遠賀町の空き家の庭で、たばこの吸い殻を見つけたこと

とがある。回収後、捨てられることはなくなったという。「誰かが管理していると分ければ、第三者は勝手に入りにくくなる」と効果を強調する。

北島社長によると、少なくとも県内で不動産業者など10社ほどが同様のサービスをを行っているという。

住宅建設に携わる業者でつくる一般社団法人「京築空き家管理協会」(行橋市)も昨年2月の設立後、京築地区を中心に、清掃や換気などの空き家管理を請け負う。末次旅人代表理事は「今後、空き家管理の需要はさらに高まり、参入業者も増えていくのではないかと予測する。」

(吉村次郎)